

世界や日本で「美しい！」と絶賛されてきたいきもの約500種類！ 標本・剥製・写真など約1500点！



日本が
ほこる海の宝石

日本三名宝

ツツヤした貝殻をもつタカラガイの中でも、
形や色が美しく、めったに見つからない日本の3種類。
昔、あわせて数百万円の値がついたことも
あったという。

オトメダカラ(上)・ニッポンダカラ(中)
【標本・写真:千葉県立中央博物館】
テラマチダカラ(下)
【標本:国立科学博物館】



萩ゆかりの
まぼろしの
美白のアマダイ
べっぴんさん



1980年代、萩の漁船が東シナ海でとっていたが、
今では「まぼろし」となった謎のアマダイ。
色白の美人にたとえられ、
「べっぴんさん」と呼ばれて
いたという。

【他のアマダイ類の骨格や皮を
使ったイメージ剥製:萩博物館】



美形いきもの界への案内役
忠義の猫 萩にゃん。
(萩市マスコットキャラクター、
萩市観光課長代理)



幸せを呼ぶ
「世界一美しい鳥」

ケツァール

中央アメリカのジャングルにすみ、先住民に「神様の使い」
としてうやまわれてきた「世界一美しい鳥」。
現地でもなかなか見られないため、
「見た人は幸せになれる」といわれる。

【剥製:国立科学博物館】



毒を
あやつる
カラフルな美蝶
サルダナパルス
ミイロタテハ

ドイツの学者フルーストルフェルが
「絶対的に人を魅せる美しさ」とまで絶賛！
しかし、美しさの裏に「毒」に
まつわる秘密が。

【標本:山口県立山口博物館】



雪のように
白い「百獣の王」

ホワイトライオン

昔は空想の動物と考えられていたが、20世紀に
なって実在するとわかった。雪や氷の
多かった約2万年前ごろの体色の
名残りと考えられている。

【剥製:きしわだ自然資料館】



メタリックに
輝く絶世の美鳥
金鶏・銀鶏・金銀鶏

昔は空想の鳥と思われていたキンケイをはじめ、
中国南西部のキジのなかまたち。キンギンケイは
「中国で最も美しい鳥」といわれている。

キンケイ(左)・キンギンケイ(右)・
キンギンケイ(中央)
【剥製:つやま自然のふしぎ館】

いきものたちの
本当の「美しさ」とは？
いつ、どこで、なぜ
「美しさ」を発揮するのか？
…秘密を解き明かせば、
かれらと友達に
なれる!?



「美」にとまどうサムライ
萩博之助

協力(五十音順・敬称略):
きしわだ自然資料館、国立科学博物館、シーアゲイン、スサリゾートダイビングサービス、千葉県立中央博物館、つやま自然
のふしぎ館、豊田ホテルの里ミュージアム、光市文化センター、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、山口県外海栽培漁業
センター、山口県漁協須佐支店、山口県漁協萩地方卸売市場、山口県立山口博物館
萩田華子、天野千絵、上原哲夫、小田昭勇、菅 晋郎、畠山武史、松浦満行
生物イラスト:佐伯温香